

内容

第 1 章	DMExpress 概要	5
1.1	DMExpress 概要	7
1.1.1	DMExpress とは	7
1.1.2	DMExpress 構成	7
1.1.3	定義ファイルの移行方法	8
1.1.4	DMExpress トレーニングのシステム構成	8
1.2	DMExpress サービス	9
1.2.1	DMExpress サービスとは	9
1.2.2	DMExpress サービスの起動と停止	9
第 2 章	DMExpress GUI 概要	12
2.1	DMExpress GUI	14
2.1.1	ジョブエディタ	14
2.1.2	タスクエディタ	16
2.1.3	処理の実行方法	18
2.1.4	DMExpress のバージョン確認方法	19
2.1.5	DMExpress のマニュアル	20
第 3 章	処理開発の基本 I	22
3.1	処理開発の基本 I	24
3.1.1	目的	24
3.1.2	ソート処理の開発	24
3.1.3	使用するサンプルデータ	24
3.1.4	ジョブとタスクの定義	25
3.1.5	処理のテスト実行	40
3.1.6	チューニングの実施	47
3.1.7	処理のコマンド実行	51
第 4 章	処理開発の基本 II	56
4.1	処理開発の基本 II	58
4.1.1	目的	58
4.1.2	処理内容	58
4.2	処理開発の基本 II (結合処理の作成)	59
4.2.1	ETL (結合) 処理の開発	59
4.2.2	使用するサンプルデータ	59
4.2.3	環境変数の利用	61
4.2.4	ジョブとタスクの定義	62
4.2.5	処理の実行	87
4.3	処理開発の基本 II (集計処理の作成)	91
4.3.1	ETL (集計) 処理の開発	91
4.3.2	使用するサンプルデータ	91
4.3.3	タスクの定義と外部メタデータ機能の利用	92
4.3.4	処理の実行	106
4.3.5	処理フローの作成	107
第 5 章	処理開発の応用	111
5.1	処理開発の応用	113
5.1.1	目的	113
5.2	処理開発の応用(Lookup 処理)	113

5.2.1	Lookup 処理.....	113
5.2.2	使用するサンプルデータ.....	114
5.2.3	ジョブとタスクの定義.....	116
5.2.4	処理の実行.....	132
5.3	処理開発の応用(キーブレイク関数).....	135
5.3.1	キーブレイク関数の処理.....	135
5.3.2	使用するサンプルデータ.....	135
5.3.3	ジョブとタスクの定義.....	137
5.4	処理開発の応用(条件分岐関数).....	150
5.4.1	条件分岐関数の処理.....	150
5.4.2	使用するサンプルデータ.....	150
5.4.3	ジョブとタスクの定義.....	151
第 6 章	DMExpress の処理設計.....	167
6.1	設計時の考慮点.....	168
6.1.1	目的.....	168
6.1.2	ジョブとタスクの構成.....	168
6.1.3	資源の配置ディレクトリとネーミングのルール.....	168
6.1.4	文字コードについて.....	169
6.1.5	入力データの推定サイズについて.....	172
6.1.6	処理フローの早い段階でのデータ削減.....	172
第 7 章	DMExpress の保守・運用.....	174
7.1	保守・運用時の考慮点.....	176
7.1.1	目的.....	176
7.1.2	完了コード.....	176
7.1.3	ジョブのリアルタイム進行監視.....	177
7.1.4	コメント機能.....	179
7.1.5	影響分析機能.....	182
7.1.6	dmxdiff 機能.....	185
7.1.7	レポート機能.....	186
7.1.8	バックアップ/リストア.....	187
第 8 章	付録.....	188
8.1	付録.....	189
8.1.1	目的.....	189
8.1.2	DTL 機能.....	189
8.1.3	カスタムタスク機能.....	190
8.1.4	分割出力機能.....	192
8.1.5	ワイルドカード文字.....	193
8.1.6	NULL 値の扱い.....	194
8.1.7	ユーザー定義の処理.....	199
8.1.8	関数ガイド.....	209